

全国学力・学習状況調査の結果から

「全国学力・学習状況調査」は、全国的に児童生徒の学力状況を把握するために、文部科学省が毎年実施しています。本年度は小学6年生と中学3年生を対象に、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査と、児童生徒質問調査を行いました。また、中学校の理科で初めてコンピュータを活用したC B T (Computer Based Testing) による調査が実施されました。調査結果は、市のホームページでも公開しています。

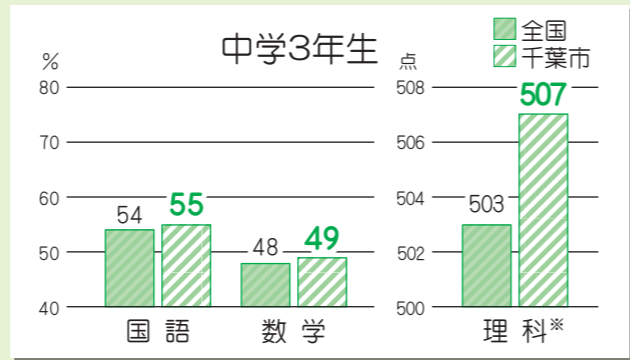
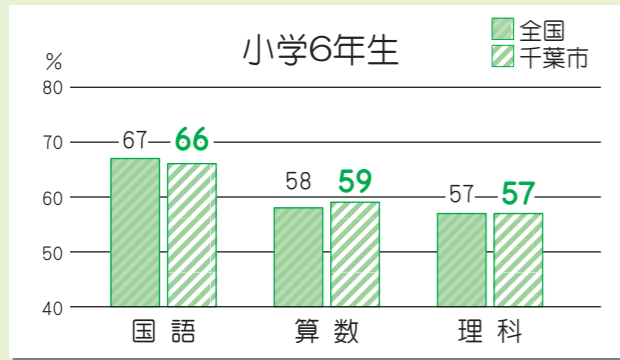


1 教科に関する調査の結果

千葉市の平均正答率は、小学生は全国（公立）の平均正答率を国語が下回り、算数が上回り、理科が同等の結果となり、中学校は全教科が上回る結果となりました。

全国との平均正答率の比較

※令和7年度より中学校理科はIRTに基づいて算出される学力スコアの数値
※IRTについての説明は上記市のホームページ参照



さらなる学力アップに向けて

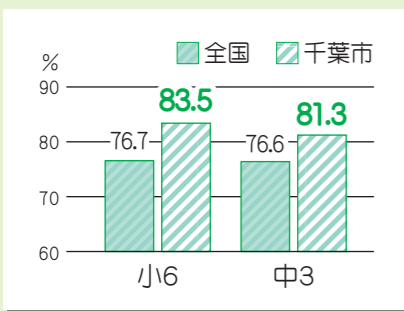


教育委員会 各教科の指導を改善していくための方向性やポイント等を示した資料を作成し、教員の指導力を一層高め、授業改善を推進していきます。

学校 自校の児童生徒の実態や調査結果の分析を基に傾向や課題を把握し、「学力向上アクションプラン」の見直しを行い、重点テーマの設定等により授業改善を進めていきます。

2 児童生徒 質問調査の結果

「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って、学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか。」という質問に対する肯定的な回答をした割合



肯定的に回答した割合は、全国より小学校は6.8ポイント、中学校は4.7ポイント高い結果でした。千葉県では、情報を分析し根拠を明確にして伝え合う活動や、情報活用能力の育成を進めています。

自信をもってプレゼンテーションにまとめることに加え、「図や表、グラフで情報を整理する」ことにも自信を持っており、これらの学び方を生かして「主体的・対話的で深い学び」を実現していきます。



地域や社会とのつながりを、子どもたちにも！

千葉市の子どもたちは、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対して、肯定的な回答をする割合が全国と比較して同程度又は高い傾向にあります。地域の行事に家族で参加するなど、身近なところから、できる範囲で様々な人々と関わるのが大切です。家庭でも地域の出来事や変化、身のまわりの課題について話し合ったり、一緒に調べたりすることを通して、よりよい地域や社会を共につくろうとする気持ちや考え方を育てていきましょう。



3 課題が見られた設問例

小学校 理科問題（一部抜粋）
3 (4) (概要)

設問の概要 [水あり・空気あり・適温・日光なし・肥料なし]という条件下で、レタスの種子が発芽しなかった。その後、どんな学習課題を立てるかを考える。

たかひろさんが行った実験

しめらせてあったし綿

(条件)
・水あり
・空気あり
(種子が空気にふれている)
・温度(室温)
・日光なし
(箱をかぶせている)
・肥料なし

たかひろ: レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を左下のようにしたのに、1つも発芽しなかったよ。

てるみ: 水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、左の(条件)の中から1つ選んで調べてみたい。

(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか？ その【問題】を1つ書きましょう。

【正答例】「レタスの種子が発芽するために、日光は必要なのだろうか。」

「毎日の中の“ふしぎ”を発見しよう！」

日常生活の中にも「ふしぎ」がたくさんあります。例えば、冷たい水を入れたコップの外側がぬれたり、毎日同じ時間に見ているのに月の位置や形が変わったりすると、「どうしてだろう?」という気持ちが生まれますよね。小さな発見を比べたりまとめたりすることで、考える力や表現力もぐんと伸びます。知識を確かめるだけでなく、自分で問いを立てて答えを探る楽しさを味わえるチャンスです。

このような問題では…

身の回りで起こる事象は、これまでに学んだ知識だけで説明できるとは限りません。学習した内容とのずれや矛盾に気づき、「どうしてだろう?」と自ら問いを立てることです。「何かを知っている」という知識だけでなく、「何がわからないのか」という課題を発見する力も同じように大切です。そして、条件や仮説を考えながら解決へと向かう力を身に付けることが重要です。

中学校 理科問題（一部抜粋）
7 (2) (概要)

設問の概要 消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選ぶ。

図のように消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることで、体内に取り入れやすくなります。

(2) 加熱することで分解が起きるものを1つ選びなさい。

- 電熱線に電流を流して水を加熱する
- ガスバーナーで炭酸水素ナトリウムを加熱する
- ブドウ糖を含む溶液にベネジクト液を加えて加熱する
- マグマが地下水を加熱する

「領域、教科を越えて考える面白さ」

理科の学習では、エネルギー・粒子・生命・地球などの領域が互いに関係しています。例えば植物の光合成では、生物の仕組みだけでなく、光のエネルギーや二酸化炭素と水の反応など、複数の領域の知識が必要です。さらに理科は他の教科ともつながります。気象の学習は社会科の気候に関係し、力や速さの学習は数学科の関数と密接に関わります。理科が他の領域や教科等とつながっていることに気付くと、学ぶ面白さが広がり、様々な視点から考えることでより深く理解できるようになります。

このような問題では…

この学習では、食物の消化の仕組みを、大きさが小さくなる物理的変化だけでなく、食べ物の成分が別のものになる化学的変化も含めて考えていきます。さらに、身のまわりで起こる化学変化と関係付けながら、物質の変化の共通点や違いに気づき、科学的に考える力を身に付けます。

出典：「令和7年度 全国学力・学習状況調査 小学校理科調査問題 中学校理科調査問題」 ※問題は紙面の都合上、一部編集しています。

子どもたちの学びをよりの確に捉えるための CBT (コンピュータを活用した学習状況調査) さらなる拡大へ

CBTの特徴

- ・動画やアニメーション、操作型の出題形式により、子どもの思考の流れや根拠の示し方を把握しやすくなる。
- ・思考力、判断力、情報活用能力などの発揮状況を正確に確認できる。
- ・結果の集計が速く、学習状況に応じたタイムリーな指導改善に活かせる。

今後の実施予定

[令和8年度] 英語 [令和9年度] 国語、算数・数学

子どもたち一人ひとりの学びをよりの確に捉え、教育の質を高めていくことが期待されています。

